

2014 CSR 報告ダイジェスト
Continuous Growth with Sustainable Society



CSR
CSR Report Digest



| | |
|-------------------|----|
| 目次 編集方針 会社概要 | 1 |
| 経営理念 経営ビジョン 経営方針 | 2 |
| トップコミットメント | 3 |
| 事業概要 | 5 |
| 事業を通じた社会課題の解決 | |
| 計測事業 | 7 |
| 産業機械事業 | 9 |
| 情報通信事業 | 10 |
| アンリツグループのCSR 重要課題 | 11 |
| ステークホルダーダイアログ | 13 |
| CSR 活動ハイライト | 15 |
| ESG データ集 | |
| 主要グループ会社 | 17 |
| 第三者意見 | 18 |

編集方針

2013年度のCSR活動は「CSR報告2014」として、ダイジェスト版の冊子と詳細版のPDFを発行して報告しています。ダイジェスト版では、各事業での社会的課題解決への関わりとともにステークホルダーダイアログでの議論、およびCSR重要課題について分かりやすく報告することを基本としました。詳細版(PDF)では重要性測定により導き出された12の重要課題ごとに整理し、具体的な活動状況を掲載することで、より多くのステークホルダーの皆さまに当社のCSR活動をお伝えすることに努めています。

<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/CSR/>

財務面の詳細については、ウェブサイト <http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/Investor-Relations/> またはアニュアルレポートをご参照ください。

[参考にしたガイドラインなど]

- ・ISO 26000 : 2010
- ・GRI 「サステナビリティレポートガイドライン」 第4版

活動報告対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日
(一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます。)

活動報告対象組織

報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。以下のルールで区別しています。

- ・「アンリツ」または「アンリツグループ」
記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全体的場合
- ・「アンリツ(株)」
記事内容がアンリツ(株)単体的場合
- ・「グループ会社」
記事内容がグループ会社またはその一部の場合

発行日：2014年7月31日(前回：2013年8月1日)
お問合せ先：アンリツ(株) コーポレートコミュニケーション部
CSR・CS推進チーム
TEL：046-296-6514
FAX：046-225-8358
URL：http://www.anritsu.com
(次回は2015年7月に発行予定です。)

会社概要

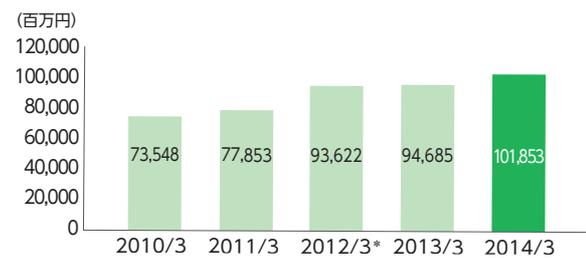
本社所在地：神奈川県厚木市恩名5-1-1

創業：1895年
資本金：190億52百万円*1
売上高：1,018億53百万円*2
株主数：15,390名*1
社員数：3,880名(連結)*1
757名(単独)*1
取引先社数：730社*1



*1 2014年3月31日現在 *2 連結：2014年3月期

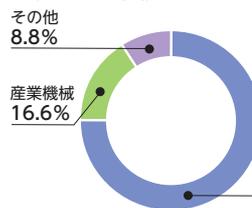
売上高



* 2012年3月期よりIFRS(国際財務報告基準)適用

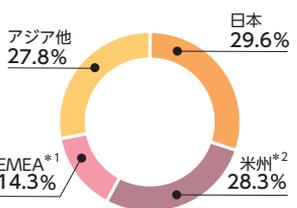
事業別連結売上高比率

(2014年3月期)



地域別連結売上高比率

(2014年3月期)



*1 Europe, the Middle East and Africaの略。欧州・中近東・アフリカを表す。

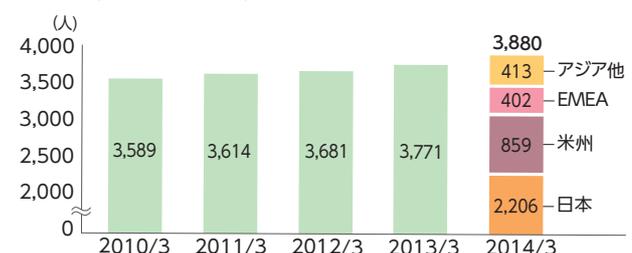
*2 アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジルを表す。

営業利益/売上高営業利益率



* 2012年3月期よりIFRS(国際財務報告基準)適用

社員数(アンリツグループ)



アンリツは、経営理念・経営ビジョン・経営方針に掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業としての行動原則を示すグローバル・コンパクトや、より具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章および行動規範を遵守することを通して、CSR活動を推進しています。



アンリツグループ企業行動憲章

アンリツグループは、誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”を核とし、衆知を集めたイノベーションをとおして企業価値を向上し、社会全体から成長・発展を望まれる企業となることを目指します。株主・投資家、顧客、取引先、従業員、地域社会など、すべての関係者の皆さまに対し誠意を尽くし、個々を尊重し、各々との和を大切にしつつ、企業の社会的責任を果たすため、意欲的に行動します。

| | |
|----------------|--|
| 人権尊重 | すべての人々の人権を尊重し、人種、性別等による差別的取扱いや、個人の尊厳を損なう行為を行いません。また、児童労働、強制労働を認めません。 |
| 従業員の尊重 | 従業員一人ひとりの個性を尊重し、能力を十分に発揮でき、安全で生き生きと働ける環境を実現します。 |
| 社会との調和 | 国際社会や地域社会の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する経営を行います。 |
| 地球環境保護 | 地球環境への負荷を低減し、持続可能な社会づくりに貢献します。 |
| 社会貢献活動 | 良き企業市民として積極的に社会貢献活動を行います。 |
| 顧客満足 | 社会的に有用な製品・サービスを、品質、安全、環境に十分配慮して開発、提供し、顧客の満足と信頼を獲得します。 |
| 誠実な企業活動 | 公正、透明、自由な競争を行うとともに、政治、行政そして市民および団体と、健全かつ正常な関係を維持します。 |
| 企業情報の発信 | 企業情報を公正かつ適時に開示し、企業活動の透明性を高めます。 |
| 情報資産の管理 | 個人情報、顧客情報を含む情報資産の適正な管理を行います。 |

経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範のうえ、実効ある社内体制の整備を行い、企業倫理の徹底を図ります。万一、法令に違反するような事態が発生したときには、経営者自らが問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にして、自らを含めて厳正な処分を行います。



国連グローバル・コンパクト

2006年3月、アンリツは「国連グローバル・コンパクト(GC)」の掲げる10原則に賛同し、参加を表明しました。この原則をグループ全体のCSR活動と結びつけて推進しています。



先進と信頼のアンリツブランドで、 本業を通じて社会課題の解決に 貢献していきます

2014年7月
アンリツ株式会社 代表取締役社長

橋本 裕一

Q 情報通信システムや食品・医薬品など社会的に重要な分野で事業を行う企業として、どのような役割を担っていきたくとお考えでしょうか。

ビッグデータを活用した自動車の安全運転システムや遠隔医療システム、IT技術によってエネルギー需要をリアルタイムに把握して効率良く送電するエネルギー管理システム、腕時計やメガネタイプの「ウェアラブル端末」を利用した健康管理など、モバイル通信技術が基盤となるアプリケーションは今も進化・発展を続け、社会変革、産業革新の中核となっています。こうした通信システムは、新技術が登場した際、既存のシステムとの相互接続や異なるメーカーが開発・製造した端末間の相互接続も必要であり、いかに安定して「つながる情報通信システム」を構築するかが、社会の重要な課題となっています。この課題解決には、

システム全体と細部にわたる知恵が必要となります。

当社は通信のあらゆる要素技術に精通し、情報通信サービスの発展に貢献してまいりました。これからも、1895年の創業以来、情報通信の発展とともに育んできた経験知を活かした先進と信頼のアンリツブランドとして、しっかりと社会的使命を担いたいと考えています。

産業機械事業の分野では、生活水準の向上とともに、世界的な広がりを見せている「食の安全・安心」に関する事業を展開しています。人口の増加による食資源の確保は安全性を伴うものでなければなりません。また、意図的な異物混入を防止するフードディフェンスも新たなテーマとなっています。各国、各地域の食文化の特性に応じた異物検出、質量検査ソリューションのラインアップ、検出感度向上による必要最低限の異物の排除、作業者の限定・特定、監視による異物混入対策など、常に社会的視点で開発に取り組み、食の安全と安心を支える企業としての責任を果たしていきます。

Q では、アンリツグループにとって、サステナビリティの重点課題はどこにあると考えていますか。

アンリツグループは、CSR 経営のあるべき姿として、4つの達成像を社会に問うてきました。その中でも最大の柱は、「企業として本業を通じて社会の課題解決に貢献する」です。それは経営理念にも掲げる「安全・安心で快適な社会構築への貢献」として、アンリツの企業活動の事業軸と社会軸を表すものでもあります。世界のモバイル端末の加入件数は、世界人口70億人に対してすでに60億件を超える状況です。モバイルネットワークを利用したサービスは、世界の各地域でさまざまな利活用を生んでいます。それらは、再生可能エネルギー管理や小口金融など、まさに社会的イノベーションを伴うものとなっています。ますます、アンリツならではの経験知を活かした貢献が求められています。そのためにはあらゆるステークホルダーとの対話を積極的に行い、ニーズを把握することが大切です。アンリツの商品やサービスが社会価値を生むものであるかどうか、常に真摯に問うていきたいと思えます。アンリツグループ全員が同じ企業像と企業行動を共有するための取り組みにも力を入れてまいります。

Q 最後に、新たなブランドステートメント“envision : ensure”に込めた思いを聞かせてください。

当社は、120年の歴史を継ぎ、これからも社会の発展に貢献するために、2020 VISIONで「グローバル・マーケット・リーダーになる」という目標を掲げています。「アンリツらしい価値の提供により世界中の顧客に信頼される先進のブランドを築き、ワールドクラスの強靱な高付加価値体質を実現している」。これが私の描くグローバル・マーケット・リーダーとしてのアンリツの姿です。当社は、この2020 VISION、そしてさらにその先を見据え、“envision : ensure”というブランドステートメントを掲げました。このメッセージの真髄は、「お客さまと夢を共有しビジョンを創り上げるとともに、イノベーションによりお客さまの期待を超える確かなカタチあるものに創り上げる」ということにあります。これからも、お客さまの真のパートナーとしてお客さま、社会の課題解決につながるソリューションの提供に努め、一層の企業価値向上に努めてまいります。

envision : ensure

— アンリツの約束 —

2015年、創業120周年を迎えるアンリツ。私たちはいま、よりよい社会づくりに向けて、新たな約束を掲げました。それが、envision : ensureです。お客さまと夢を共有しビジョンを創りあげるとともに、それをイノベーションによりお客さまの期待を超える確かなカタチあるものへと創りあげる。これが、envision : ensureに込めたメッセージです。

envision : ensure

お客さまと夢を共有し具体的なものへと創出します。お客さまと揺るがないパートナーシップを築いてイノベーションに挑戦します。

お客さまに高い付加価値を確実に提供します。その確からしさは、お客さまとの強い信頼関係を生み、ビジョン実現の原動力です。

コロンの「:」は、左右が等しいことを表します。また相互に影響し合うことを示唆します。「夢」=「確かなものにする」というサイクルを常に回していきます。

毎日の生活につながるアンリツグループ

あなたの暮らしをより便利に、快適に

— モバイル・ブロードバンド・サービスを支える、計測ソリューション —



暮らしのイン

— ブロードバンドネットワークを



アンリツが提供するソリューションで安全・安心な社会へ——
つなげる - みまもる - みつける。

アンリツは、情報通信・映像監視・食品・医薬品などのさまざまな分野で、皆さまの暮らしや
ビジネスを支え、安全・安心で快適な社会づくりに貢献しています。

あなたの暮らしに安心を

— 食の安全、災害監視、眼病検査などで暮らしを支える、各種ソリューション —



異物検査



混入した異物を発見

質量検査



欠品・不良品を発見

計量検査



分量の最適化

遠隔監視



ダムの水位・流量を監視

防災・減災



事故や災害の映像監視

医用機器



眼科医用機器の光源

フラを支える

支える、計測ソリューション —



通信ネットワーク



ネットワークの監視・品質保証

データセンター



通信設備の高速化

あなたの暮らしをより便利に、快適に

—グローバルに情報通信サービスを支える、計測ソリューション—

アンリツの強み

120年の歴史で築き上げた高い技術力と経験、ノウハウを活かし、モバイル・ブロードバンド・サービスの発展に関わるあらゆるプレイヤーの皆さまに、モバイル端末の開発から製造、ネットワークの建設・保守までカバーした計測ソリューションを提供しています。「モバイルのアンリツ」として、先進性と信頼を核とする総合力で情報通信業界のスピーディな変化に対応し、お客さまの期待に応えます。

モバイル計測ビジネスモデル

研究開発への支援

お客さまの開発した、無線通信を担うチップセットが国際標準規格に準拠していることを検証するため、テストシステムなどを提供しています。第3世代(3G)携帯電話通信規格の研究開発ではデファクトスタンダードの地位を確立しており、ここで培った実績とお客さまとの信頼関係をベースに、次世代通信規格LTEの研究開発でも貢献しています。



生産への支援

携帯端末生産ラインの製造・検査工程において、無線の送受信試験や複数端末の同時測定、あるいは一台の測定器で複数の無線技術を同時に測定するという計測ソリューションを提供し、高品質化や生産効率化を支えています。省電力・環境影響の低減を実現させながら、お客さまの生産ラインに最適な各種計測器および検査システムを提供し、製造・量産に寄与しています。



保守・サポートへの支援

無線基地局の建設・保守の現場で使う品質評価用計測器などを通じて、グローバルな無線通信ネットワークの拡充に貢献しています。建設・保守現場への携行ニーズに対応して計測器のハンドヘルド化を実現するなど、高い付加価値を提供し、デファクトスタンダードとして業界をリードしています。



Interview

お客さまとの信頼関係をもとに通信インフラを支えます

情報通信はいつでもどこでも利用できる、生活に欠かせない存在になっています。

モバイル・ブロードバンド・システムでは人類共有の資産である周波数を有効に活用しながら、高度化する情報通信サービスを実現するという課題に向き合っています。私たちはこうした課題を解決するため、利用される製品がグローバルな基準に適合していることを示し、信頼性を確保するためのソリューションを社会に提供しています。

変化の激しい通信業界では規格が頻繁に更新されるため、それに対応するお客さまへの継続的なサポートが不可欠です。長年にわたり築き上げた無形の財産ともいえるべき信頼関係をもとに、先のビジネスを見据える世界のお客さまのよきパートナーとして、常に最先端の技術を習得して、価値ある提案をし続けていきます。



アンリツ株式会社 常務執行役員 研究開発総括 高橋 敏彦

アンリツのソリューション

日々、進化する情報通信技術は、社会的課題の解決に貢献することが期待されています。急激な天候変化や地震発生の早期伝達により被害を最小限に抑えるとともに、災害発生の情報収集や家族の安否確認といったインフラとしての活用が広がっています。さらに、学校に行くことが困難な子どもに遠隔教育の機会を提供し、教育の格差・不平等を解決することができます。また、世界のどこに住んでいても

高品質な診断が受けられ、高度専門医療へのアクセスが容易になる日も近づいています。

このような課題解決のカギとなる情報通信機器が規格に準拠して動作するよう、さまざまな条件で検証することが求められます。アンリツはこれらの用途で使用される計測システムにおいて、リーディングカンパニーとしてお客さまから厚く信頼いただいています。

ソリューション事例



モバイル端末
テストプラットフォーム

次世代モバイル・ブロードバンド・システムの早期実用化に貢献

世界各国で導入が進むLTEをさらに高速化したLTE-Advancedでは、複数の周波数帯を組み合わせ、より大きな帯域幅を仮想的に作り出すキャリアアグリゲーション機能が導入されています。各端末メーカーは端末の品質基準がこれらの国際標準規格に合致していることを客観的に証明することを求められます。アンリツのモバイル端末テストプラットフォームは業界で初めて、このLTE-Advanced端末の商用化に必要な認証試験の提供を可能としました。

あなたの暮らしに安心を

—異物検査、質量検査、品質管理システムなどで食の安全を支える各種品質保証ソリューション—

Interview

最適なソリューションを提案し、安全・安心を支えます

日常的に口ににする食品や薬品の安全・安心は、人類共通の願いです。

世界の食品・薬品メーカーでは、異物混入チェックや内容物の計量などを原材料の状態から行う場合や、出荷用に包装された状態で検査を実施している場合もあり、安全・安心の取り組みはさまざまです。上流から下流まで、一貫した品質保証を高いレベルで求める場合もあります。私たちは、長年にわたって信頼されるパートナーとして、こうしたお客さまのそれぞれの状況に応じた最適なソリューションを提供してきました。これからも、果敢にイノベーションに挑戦し、お客さまとともに夢を確かにするサイクルを確実に回していきます。



アンリツ産機システム株式会社 執行役員 川辺 哲雄

アンリツのソリューション

食品メーカーや製薬会社の生産ラインを高速移動する検査対象の重量を瞬時に計測する重量選別機や、混入異物を見つけ出すX線異物検出機や金属検出機は、出荷前の製品を全数検査するという非常に重要な役割を担っています。

検査の精度に対する要求は、国や地域、お客さまによってさまざまです。また、お客さまの工場によって生産ライ

ンの仕様が異なるため、設計段階からすべてカスタマイズして検査機器を設置する必要があります。アンリツは現地法人、代理店、現地のパートナー企業と連携し、お客さまの状況に合わせたきめ細かい提案をしています。厳しい品質管理システムが定着している日本で蓄積してきたノウハウを活かし、食品や薬品の安全・安心を実現するソリューションをグローバルに提供しています。

ソリューション事例

食品メーカーの生産ラインで活躍する検査機器

検査品の内部を透視するX線検査。異物だけでなく、検査品の形状不良や数量不足も検査でき、X線検査の可能性

を広げています。より確実に高度な品質管理に向けて、独自のソリューションを提供します。



暮らしのインフラを支える

—いつでも、どこでも安全・安心、快適につながる社会の実現に向けて—

Interview

「つながる」社会の実現に貢献します

スマートフォンやインターネットの普及は「いつでもどこでもつながっている」環境が普通であるかのように見せています。しかし、インフラストラクチャの隅々を眺めると、「つながりにくい」環境、いざという時に「つながらないかもしれない」心配、そして、「つなぐことをあきらめた」端末も数多く残されています。私たちのネットワーク装置によって、お客さまが「つながってよかった」と満足され、その先にある「つながる」社会の実現に少しでも貢献できればと考えています。



アンリツネットワークス株式会社 代表取締役社長 舟橋 伸夫

アンリツのソリューション

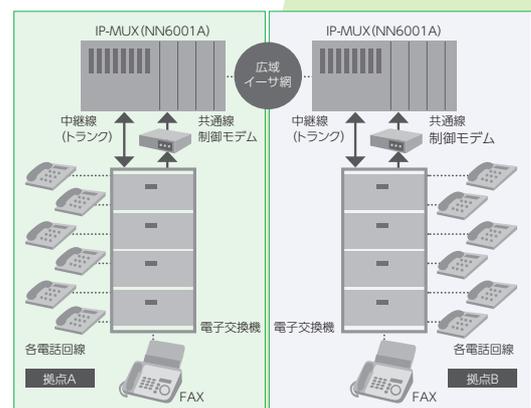
アンリツは、「何でもインターネットにつなげてしまう」ネットワーク時代に、お客さまが『伝えたいものを確実に伝える』通信ソリューションを提供しています。例えば、お客さまのネットワークを統合し「上手(Smart)につなぐ」ことで効率化を図る帯域制御装置。レガシーネットワーク設備を最先端ネットワークに「器用(Skillful)につなぐ」こ

とでお客さまの既存設備の価値を守るIPアダプタやIP多重化装置。私たちは保有するハードウェアやソフトウェアの技術を製品として直接お客さまにお届けするとともに、アンリツの技術を活かしてくれるビジネスパートナーに提供し、幅広い分野で社会・通信インフラの構築に貢献していきます。

ソリューション事例

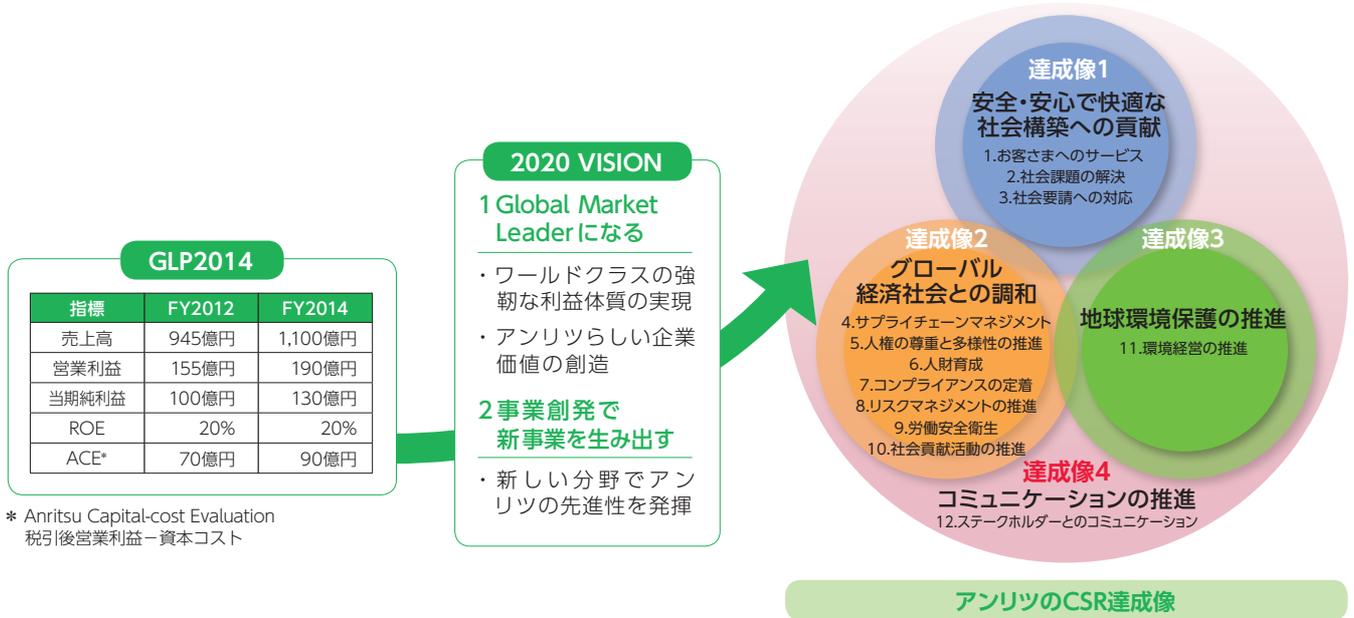
アナログ回線IP多重化装置 (NN6001A)

アナログ回線IP多重化装置は電話、FAX、データ通信用のモデムなどを有効活用してIP化を実現できる伝送装置です。多くの地方自治体や企業の通信網は遠隔地の設備と回線を通じて多くの情報をやりとりしています。お客さまは長年使っているアナログ装置を効率よく活用して、いかにIP通信網に対応するかが課題でした。本装置を導入することで、低コストで多くのアナログ装置をそのままIP網で利用できます。寒冷地や高温多湿などの厳しい環境でも安定して稼働します。さらに災害時などの通信回線不通時には衛星回線に接続することでタイムリーな情報提供が可能です。



事業戦略と連動した グローバルCSRを実践

ステークホルダーから信頼され続けるアンリツグループであるために、「人権課題への対応」と「現地CSRの推進」をCSR戦略課題として設定し、グローバル・マーケット・リーダーに相応しいCSR経営を目指します。



* Anritsu Capital-cost Evaluation
税引後営業利益－資本コスト

アンリツのCSR達成像

2013年度の実績と2014年度の目標

12の重要課題のうち、以下の5つをさらに重要な課題と位置づけて取り組みを進めてきました。

特に記載のある場合を除いて、対象はアンリツ(株)および国内グループ会社です。

達成度…… ○: 達成 △: 達成率50%以上 ×: 未達成

| 達成像 | 重要課題 | 2013年度実績 | 達成度 | 2014年度目標 |
|-----------------------------|---------------------|---|---------------------------------|---|
| 【達成像1】 安全・安心で快適な社会構築への貢献 | お客さまへのサービス | ① CS行動指針を中国マネージャーにプレゼンテーションにて周知 ② CS教育プログラムを中国で推奨するが、実施まで至らず ③ 国内サービス: 24時間サポート体制充実にSFDC(サービスのセールスフォース)を活用 海外サービス支援: 海外拠点の一部でSFDC導入 | ○ × ○ | ①ステークホルダーの声の蓄積と改善活動のしくみ作り ②お問い合わせ窓口の改善と回答データベースの共有 ③グローバルな保守プロセス改革およびお客さまサポートセンターの充実継続 |
| 【達成像2】 グローバル経済社会との調和 | サプライチェーンマネジメント | ①日米調達ボリュームを統合した価格交渉を推進し、PCB、ケーブル、LCDの日米サプライヤーの統一推進中 ②取引先さまの有害物質対応格付完了(ABCランク)し、Cランク(対応不十分)取引先さま2社への監査完了 ③紛争鉱物対応の体制を作り調査を実施 | ○ ○ ○ | ①グローバルSCM体制の構築(GSSCの推進) - 日米共通サプライヤスコアカードの策定 ②有害物質監査体制の強化 ③紛争鉱物対応の確立(CSR調達の推進) - 対象品の先行調査の実施 ④BCM・ガバナンスの強化 - 下請法の対応した金型貸出管理の運用 |
| | 人権の尊重と多様性の推進・人材育成 | ①フィリピンでの採用、中国からのインターンシップを継続実施 ②役割に基づいた新しい人事評価コンセプトを構築 ③製造、経営管理における障がい者業務での求人募集、採用面談 ④人員表の見直し(男女別の人員) | ○ ○ ○ ○ | ①外国籍社員採用の推進 ②人事の新制度導入へ向け準備を開始 ③職種開発を行い、障がい者を採用できる環境を整備 ④GLP2017のHR戦略へ向けたグローバルHRポリシーの策定 |
| 【達成像3】 地球環境保護の推進 | 環境経営の推進 | ①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物の発生量(国内): 125.3トン - 埋め立て廃棄物の排出量(U.S.A.): 2010年度比22%削減(目標:20%削減) ②省資源・省エネルギー - エネルギー使用原単位(国内): 2012年度比11.5%削減 - エネルギー使用売上高原単位(U.S.A.): 2010年度比0.9%増(目標:5%削減) ③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品4製品すべてを環境配慮型製品として開発完了 - 対象製品4製品のうち3製品で省資源10%以上を達成 - 対象製品2製品すべてで消費電力改善率30%以上を達成 | ○ ○ ○ × ○ × ○ | ①廃棄物の削減・リサイクル - 産業廃棄物の排出量(厚木および平塚地区): 58トン以下 - 産業廃棄物の排出量(東北): 9トン以下 - 一般廃棄物(厚木市への搬出分)の排出量: 40トン以下 - ゼロエミッションの維持(国内) - 埋め立て廃棄物の排出量(U.S.A.): 2013年度比13%削減 ②省資源・省エネルギー - エネルギー使用量(国内): 2013年度比1.0%以上削減 - エネルギー使用売上高原単位(U.S.A.): 2013年度と同レベル以下 ③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品のすべてを環境配慮型製品にする - 対象製品のすべてを省資源10%以上の製品にする - 対象製品のすべてを消費電力改善率30%以上の製品にする |
| 【達成像4】 コミュニケーションの推進 | ステークホルダーとのコミュニケーション | ①ステークホルダーダイアログの指摘事項をレビューし、今後のCSR活動計画に反映 ②各グローバル地域のCSR活動を四半期ごとにとまとめて発信できる準備を完了 | ○ ○ | ①ステークホルダーダイアログにおける課題の共有と、各部門への活動展開 ②投資家向けコミュニケーションの改善および「統合報告」の検討と推進 |

・U.S.A.とはAnritsu Company(アメリカ)を表します。

グローバルなCSR活動を推進

私たちを取り巻く事業環境や社会的課題は常に変化します。アンリツにとっての重要課題を、時代に合わせて抽出し直しました。

重要課題に対応する取り組みの一つとして、全社を挙げたリスクマネジメントシステムを強化します。ビジネスの観点からリスクと機会を洗い出し、対応する方法を検証していきます。また、グローバルな事業展開を支えるためにも、世界各地でのCSR活動の推進が不可欠です。事業環境や人員体制などが異なる各地域で、その主体的な活動をサポートする体制を整備していきます。

2014年2月にはブランドステートメントを再構築しました。共通の概念を社内で浸透させうたえで、あらゆるステークホルダーに対して情報を発信していきたいと考えています。



アンリツ株式会社 執行役員 情報総括 永田 修

新たな CSR 重要課題を選定

アンリツは2008年、客観性と網羅性に配慮し、ステークホルダーごとに分類した社会から要請される142項目について、社内のキーパーソン30人へのヒアリングなどを通じて重要性測定を行いました。この結果、142項目のうち特に重要性が高いと識別された12項目をアンリツにとっての重要課題ととらえました。

今般、各部門の重要課題をそれぞれの部門内で議論してとらえなおすとともに、GRIやダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス (DJSI)、CDPなどさ

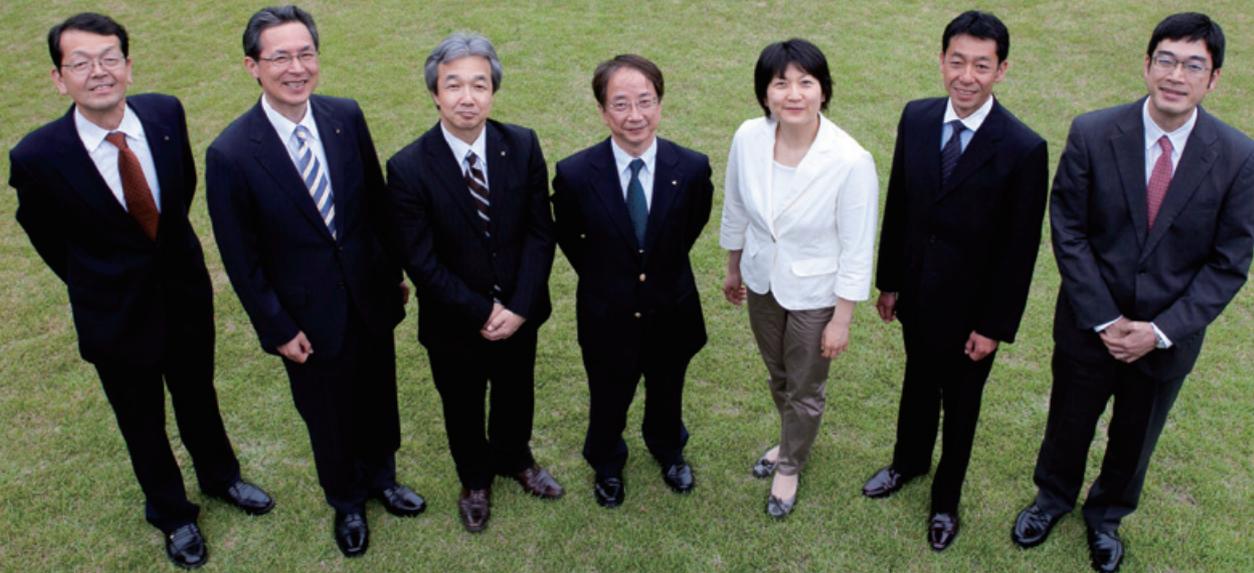
まざまなガイドラインなどから、最近の外部要請を考慮してマテリアリティを再検証しました。

この検証を通じて、アンリツにとって重要と考えられるマテリアル課題として、GRI第4版で提供される46のアスペクトから以下の22のアスペクトを抽出しました。

これらのアスペクトを有識者ダイアログでも議論し、アンリツのCSR重要課題として新たに認識するに至りました。

選択されたCSR重要課題 (GRI-G4アスペクト)

| カテゴリー | 経済 | 環境 | 社会 | | | |
|---------------|--|--|---|--|---|---|
| サブカテゴリー | | | 労働慣行と ディーセント・ワーク | 人権 | 社会 | 製品責任 |
| 側面 (アスペクト) | <ul style="list-style-type: none"> ・経済的パフォーマンス ・地域での存在感 ・調達慣行 | <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー ・水 ・大気への排出 ・製品およびサービスのコンプライアンス ・サプライヤーの環境評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・研修および教育 ・多様性と機会均等 ・サプライヤーの労働慣行評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・非差別 ・児童労働 ・強制労働 ・サプライヤーの人権評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・腐敗防止 ・反競争的行為 ・コンプライアンス | <ul style="list-style-type: none"> ・顧客の安全衛生 ・製品およびサービスのラベリング ・コンプライアンス |



グローバルCSRのさらなる高みへ

あえて3年間、同じ顔ぶれの有識者によるCSR取り組みの課題をご指摘いただき、取り組みの進捗を報告してきました。3年目となる今年度は、これまでの集大成として、さらに高いレベルでグローバルにCSRを推進するための取り組みがテーマとなりました。



経済人コーポレート会議日本委員会
ディレクター

山口 俊宗 様

2007～2008年に12の重要課題を抽出した重要性測定でアンリツをご支援いただきました。



アンリツ株式会社
常務執行役員 環境・品質総括

城野 順吉

グローバルなルールに対応しながら、日本流の良さを出す

●**山口** アンリツの誠実さを欧米でも理解してもらうためには、CSRの取り組みのなかでもリスクが高いところに取り組んでいく姿勢を見せることが必要でしょう。グローバルなルールに対応したうえで、日本らしさを出していくことが重要です。サプライチェーンの人権問題やダイバーシティ、環境など課題はさまざまありますが、あえて難しい課題に取り組むことで、リスク感度が高く、活動がしっかりしている点を伝えることができます。

●**城野** つい最近、アメリカのサプライヤーを集中的に訪問しました。現地のマネージャーにしてみれば、電話やメールで済むという意見なのでしょうが、頻繁に顔を合わせて議論するやり方は日本独特で、サプライチェーンを強くすることにもつながっています。一方で、特殊な技術を持っているサプライヤーに依存しているケースもあり、リスクとなっています。

●**赤羽** サプライヤーに問題がある場合、欧米では取引を即座に停止してしましますが、日本企業は必ずしもそうではありません。サプライヤー監査をして、結果はこうでした、でもアンリツは一緒にこういう風に改善を目指しますというように、しっかりと報告すべきです。アンリツらしさや、日本企業ならではの良さをぜひ発信してほしいと思います。

●**後藤** 日本企業は、決して大風呂敷を広げようとしません。良い面もありますが、目標を掲げるときには苦勞もあると思います。グローバル・マーケット・リーダーを目指すには、成果やインパクトなど、実現したいビジョンを端的に示すKPIを設定すべきでしょう。

事業に直結したマテリアリティを選別

●**永田** 貿易管理では国際平和と安全の維持のため、輸出管理法令の遵守と大量破壊兵器への転用防止など、競合に比べても厳重な審査体制を構築しています。またリスクの全体最適を目指し、重要リスクの特定と複数部門にわたるリスクに対応するエンタープライズ・リスク・マネジメントに取り組んでいます。

●**山口** それこそまさにマテリアリティだと思います。アンリツにとってのマテリアリティの一つは貿易管理と宣言してしまって、そのために何をしているかを報告する。読者としては、この会社は他のリスクに関してもきちんと取り組んでいると汲み取ることができます。事業に直結したマテリアリティを選定することが非常に重要です。それから、無理なKPIは設定するべきではありませんが、KPIを設定するとエンゲージメントに具体性・説得力が増すのは間違いありません。

●**谷合** 海外では一般的に勤続年数が短いといわれますが、アンリツの海外拠点では比較的長いというデータもあります。労働条件や人権の取り組みなど、きめ細かな施策を実行しています。一方で、外部への報告のあり方については、改善の余地があると考えています。

●**赤羽** 社員を大切にせる企業体質については、他社でも指標にしにくいと感じているようです。そうすると、ストーリーで語る人が多いように思います。また、ステークホルダーといってもさまざまで、それぞれ重視するポイントが違うので、優先度の高いステークホルダーに意見を聞くのが一番だと思います。会社にインパクトがあるもの、会社にインパクトはないけれども社会にインパクトがあるものなど、選別する必要があります。

●**後藤** あるグローバルな携帯電話事業会社では、自社の取り組み本位ではなく、社会のマテリアリティで報告書の目次を組んでいます。いったん既存の組織を忘れて、社会の 이슈で検討してみることが生産的な方法かと思います。

●**土肥** 的確なご指摘をありがとうございます。皆さまからのご意見を参考に、アンリツらしい取り組みを継続していきます。



CSRアジア 東京事務所 日本代表

赤羽 真紀子 様

外部の勉強会の機会を通じて、最近のアンリツCSR活動へのコメントをいただきました。



株式会社アイディアシップ

後藤 大介 様

2007年までの3年間、達成像の策定や情報開示のあり方をご支援いただきました。



アンリツ株式会社
執行役員 情報総括

永田 修



アンリツ株式会社
取締役 執行役員 コーポレート総括

谷合 俊澄



アンリツ株式会社
CSR・CS推進チーム部長

土肥 正彦

2013年度の活動紹介

グローバルミーティング

アンリツの各部門では、グローバル会議を年1回、開催しています。事業部門をはじめ、グローバルオーディット室、環境・品質推進部、経営情報システム部、経理部、人事総務部、貿易管理部、資材部などの部門でそれぞれ、日本や海外の拠点に集まり、事業の方針や外部の動向、課題などをグローバルで共有しています。



紛争鉱物（人権課題への対応）

2012年の米国金融規制改革法1502条（いわゆる紛争鉱物規制）の最終規則採択を受け、アンリツではその趣旨への賛同を表明し、社内ワーキンググループを構成しサプライチェーンへの対応を図っています。2013年度も、取引先さまに対して説明会を開催し、周知活動を行いました。



2013年

環境配慮推進事業所として認定登録

環境への負荷の低減、化学物質の適正な管理および環境に係る組織体制の整備に関する要件が満たされた場合に神奈川県から認定登録される「環境配慮推進事業所」の認定登録制度が開始されました。2013年6月に、神奈川県に位置するアンリツ(株)本社(厚木地区)がいち早く登録されました。



「企業価値向上表彰」と「誠実な企業賞」をW受賞

アンリツは2013年度に栄えある2つの賞を受賞しました。1つ目は東京証券取引所が主催する「企業価値向上表彰」優秀賞です。そして2つ目に、企業の社会的責任、企業倫理、コンプライアンス、内部統制などが評価され Integrity Award審議会主催の「誠実な企業賞」の優秀賞を受賞しました。引き続き誠実で信頼に満ちた企業を目指します。



新入社員のイノベーション研修

アンリツ(株) 本社の新入社員研修では、イノベーションを題材としたグループワークを実施しています。研修期間の2カ月間で議論と調査を重ね、立案した内容を発表します。本社採用の外国籍社員も加わり、コミュニケーションの重要性、チームワークの醸成、プレゼンテーションの実践など多くを学ぶ場となっています。



BCP

BCPの一環として、2013年7月から郡山第二事業所の稼働を開始し、既存の郡山事業所と生産ラインを分散することで、安定供給を図っています。また、厚木サイトではグローバル本社棟を建設中で、最先端の免震技術を投入し、地震災害に強い建物とする計画です。



社会貢献活動

アンリツの社会貢献は「青少年教育との連携」、「地域社会への貢献」、「環境推進活動」を3つの柱として活動しています。厚木市の本社では地域貢献として、厚木市の小中学生、高校生を対象に、理科教室、スポーツ大会、職場体験など多くの行事を開催しています。また、日本および海外のグループ会社でも地域に根ざした社会貢献を行っています。



VOICE

グローバル人材の育成に注力

アンリツはグローバルな事業活動を展開しており、海外事業を推進する人材の育成が重要だと考えています。グローバルで必要とされる人材の姿や、その育成方法などの議論を深めながら、これまでの取り組みをさらに強化していきます。

また、国籍にこだわらない採用も推進しています。その一環として、アセアンの大学からのインターン研修生の受け入れや、中国の大学に奨学金を出す取り組みも始めました。

このように海外の教育機関とも関係を強化することにより、学生に対しアンリツの知名度向上を図るとともに、各国の技術力の底上げにも貢献できると考えています。

人材の育成は長い目で取り組む必要があります。将来を見据え、地道な活動を継続していきます。



アンリツ株式会社 取締役 執行役員 コーポレート総括 谷合 俊澄

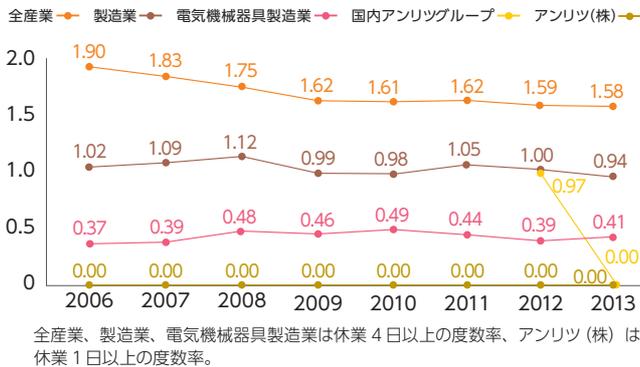
● グローバルにみた女性の活躍状況(2014年1月末現在)

| | 日本 | 米州 | EMEA | アジア他 | グローバル計 |
|--|-----|-----|------|------|--------|
| 全社員に占める女性社員の比率 (女性社員数÷全社員数) | 13% | 30% | 22% | 26% | 19% |
| 男性の幹部職登用率を100とした 女性の幹部職登用率 (女性幹部職数÷女性社員数)÷ (男性幹部職数÷男性社員数) | 9% | 59% | 74% | 78% | 47% |

● 社員データ(国内グループ会社)(各年度とも3月末時点)

| | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 社員数(国内グループ計) | 2,240 | 2,206 | 2,194 | 2,206 |
| 男性 | 1,952 | 1,927 | 1,900 | 1,913 |
| 女性 | 288 | 279 | 294 | 293 |
| 外国籍 | 20 | 16 | 24 | 26 |
| 非正規雇用 | 376 | 463 | 525 | 567 |
| 平均年齢 | 40.3 | 41.5 | 41.5 | 41.9 |
| 平均勤続年数 | 18.5 | 18.6 | 18.5 | 18.9 |
| アンリツ単体 障がい者雇用率(%) | 1.98 | 2.25 | 1.95 | 1.71 |
| アンリツ国内連結 障がい者雇用率(%) | 1.50 | 1.56 | 1.70 | 1.75 |
| 法定雇用率(参考) | 1.80 | 1.80 | 1.80 | 2.00 |

● 労働災害発生状況(100万時間当たり)



● エネルギー使用によるCO₂排出量

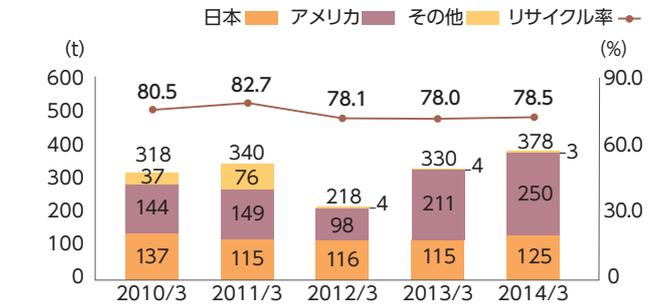


() 内にアメリカを除く電気エネルギーの排出係数を記載。アメリカは0.285。年度毎の確定値を用いて過去の排出量を変更しています。端数調整のため合計値は一致しない場合あり。

● 水使用量



● 廃棄物排出量の推移



主要国内グループ会社

- アンリツ産機システム株式会社
産業機械の開発・製造・販売・修理・保守・サービス
- 東北アンリツ株式会社
計測器・情報通信機器の製造
- アンリツカスタマーサポート株式会社
計測器の校正・修理・保守・EMC/HALT試験
- アンリツエンジニアリング株式会社
ソフトウェア・ハードウェアの開発
- アンリツネットワークス株式会社
情報通信製品の開発・販売・システム設計・保守・サービス
- アンリツデバイス株式会社
光デバイスの開発・製造・販売
- アンリツ興産株式会社
計測器のリセール・リサイクル・デザイン・ドキュメントなどの制作
- アンリツ不動産株式会社
不動産の賃貸
- 株式会社アンリツプロアソシエ
経理財務・給与計算・福利厚生に関する
シェアードサービスセンター業務
- ATテックマック株式会社
切削・板金部品・ユニット組立品の製造・販売

第三者意見

この3年間ステークホルダーダイアログに参加させていただくとともに、昨年に引き続き第三者意見を述べさせていただきます。アンリツという企業に接する度にいつも感じるのは、2015年には創業120周年を迎える歴史ある企業でありながら、常に新しい挑戦と自己変革を続けることができる力をもつ会社だということです。そういうアンリツの企業姿勢は多くが認める成果となり、2013年度には「企業価値向上表彰」の優秀賞と、「誠実な企業賞」の優秀賞をダブル受賞されました。これらの受賞は、「アンリツはグローバル・マーケット・リーダーになる」という経営の意思が、社内全体に浸透し、社員一人ひとりの行動においても具現化されているということをよく示していると思います。

過去3年間のステークホルダーダイアログは、あえて同じ有識者の参加により実施し、前回ダイアログでの指摘を一覧表にして、進捗状況を毎年更新し、ダイアログの場で報告されていました。形だけのダイアログ開催ではなく、自ら進んで変革しようという意思のもと、せっかくのダイアログを定点観測として積極的に活用しようという意欲の表れだといえます。このことも、アンリツの誠実さと先進性をよく示していると思います。

第三者意見を受けて

昨年に引き続き、赤羽様にはダイアログへのご参加および第三者意見でのご評価をいただきました。中期経営計画GLP2014に合わせて、2012年より3年間、3名のCSR関連の有識者とダイアログを実施しました。本年の第三者意見では大変高い評価をいただきました。これも3年間のダイアログにおける、CSR課題のご指摘、マネジメントや取り組みへのアドバイス、さらに社会課題の自社活動への展開法など、多くの的確なご指導の結果と認識しています。

アンリツは事業環境や社会の変化にいち早く対応しようと、CSR重要課題を見直しています。社内外のステークホルダーから意見を吸い上げ、重要課題として22の аспек트가抽出されました。昨年のGRI第4版の発行以降、網羅的にカバーするのをよとしてきた従来のCSRのスタイルから、その企業にとって重要な課題に優先的に取り組むべきだというトレンドに変化しています。それにいち早く応えようと重要課題の見直しをすでにされました。ともすれば日本企業には「横並び」しておけばよいという意識を持っている会社もある中、アンリツのCSRはワールドクラスを目指して常に進化しています。「本業を通じて社会課題の解決に貢献する」という経営の意思があり、アンリツのCSRに躊躇はなく、変化を受け入れそれに対応していこうという真摯な姿勢が買われています。

当社は2020年に向けて「2020 VISION」を掲げ、そこを目指す中期経営計画と連動し、2つのCSR戦略課題として「人権課題への対応」と「現地CSRの推進」を定めています。この課題に対する取り組みもダイアログのアドバイスを活かし継続していきます。

これからも多くのステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切にして、社会の要請に応えるべく真摯に活動していきます。

アンリツ株式会社
コーポレートコミュニケーション部 CSR・CS推進チーム



CSRアジア 東京事務所 日本代表
赤羽 真紀子

主要海外グループ会社

米州

Anritsu U.S. Holding, Inc. (U.S.A.)
Anritsu Company (U.S.A.)
Anritsu Instruments Company (U.S.A.)
Anritsu Industrial Solutions U.S.A. Inc. (U.S.A.)
Anritsu Electronics Ltd. (Canada)
Anritsu Eletronica Ltda. (Brazil)
Anritsu Company S.A. de C.V. (Mexico)

EMEA

Anritsu EMEA Ltd. (U.K.)
Anritsu Ltd. (U.K.)
Anritsu Industrial Solutions Europe Ltd. (U.K.)
Anritsu GmbH (Germany)
Anritsu S.A. (France)
Anritsu S.r.l. (Italy)
Anritsu Solutions S.r.l. (Italy)

Anritsu A/S (Denmark)
Anritsu AB (Sweden)
Anritsu Solutions S.R.L. (Romania)

アジア他

Anritsu Company Ltd. (China)
Anritsu Electronics (Shanghai) Co., Ltd. (China)
Anritsu (China) Co., Ltd.
Anritsu Industrial Solutions (Shanghai) Co., Ltd. (China)
Anritsu Industrial Systems (Shanghai) Co., Ltd. (China)
Anritsu Company, Inc. (Taiwan)
Anritsu Corporation, Ltd. (Korea)
Anritsu Pte. Ltd. (Singapore)
Anritsu India Private Ltd. (India)
Anritsu Industrial Solutions (Thailand) Co., Ltd. (Thailand)
Anritsu Pty. Ltd. (Australia)



アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名 5-1-1

TEL: 046-223-1111

<http://www.anritsu.com>